

(参考1)

H I V / エイズの基礎知識

◆エイズとは？

- ① エイズ (AIDS=Acquired Immunodeficiency Syndrome) は、日本語にすると「後天性免疫不全症候群」といい、H I V (ヒト免疫不全ウイルス) というウイルスに感染して起こる病気です。

H I Vに感染してもすぐにエイズを発症するわけではなく、また、数週間以内に風邪に似た症状が出るがありますが、無症状なことが多く、H I V検査を受けなければ感染しているかどうかは分かりません。

自覚症状のない時期 (無症状期) が数年続き、さらに進行すると病気とたたかう抵抗力 (免疫) が低下し、本来なら自分の力でおさえることのできる病気 (カンジダ症、ニューモシスティス肺炎等) を発症するようになります。

H I Vに感染してからエイズを発症するまで一定期間自覚症状のない時期が続くことが特徴です。

- ② H I Vの感染経路は限られているので、感染を予防することができます。

感染経路 ○性行為 (異性間・同性間) による感染

○血液を介しての感染 (注射器具の共用など)

○母親から赤ちゃんへの母子感染

*ポイント (伝えたいメッセージ)

- ・感染を予防するために感染経路についてきちんと理解すること。また、どのような行動をとれば、感染を防ぐことができるのかを理解すること。
- ・一人ひとりがH I V/エイズについて正しい知識を持つことが大切。

◆世界と日本のエイズ/愛知県の現状

- ① 国連合同エイズ計画 (UNAIDS) の発表によると、2024年末現在で約4,080万人のH I V感染者とエイズ患者が世界中でこの病気とたたかっています。
- ② 日本における2025年のH I V感染者及びエイズ患者の新規報告数 (速報値) は、890件です。前年に比べ減少したものの、今後の状況を注視していく必要があります。
- ③ 愛知県における2025年のH I V感染者及びエイズ患者の新規報告数 (速報値) は57名で、近年は60名~80名前後で推移し、減少傾向となっています。年代別で見るとエイズ患者は40代が最も多く、H I V感染者は30代が最も多く報告されました。一方、H I Vの感染に気づかないまま生活し、H I Vの陽性がわかった時点ですでにエイズを発症している割合 (いきなりエイズ) は30%台で推移しています。

*ポイント（伝えたいメッセージ）

- ・日本では、1日当たり約3人の新たな感染が報告されていること。
- ・愛知県でも感染は続いています。

◆検査と治療について

- ① 検査：H I V検査は、**愛知県内**の保健所等で「無料・匿名（名前を言わずに）」で受けることができます。
- ② 治療：いまのところ、からだの中のH I Vを完全にとりのぞく治療法はありません。ただし、医療の進歩によって、発症する前に治療を始めてきちんと服用すれば、発症を遅らせ、他の慢性疾患と同じように定期的な通院で、コントロールすることが可能になっています。つまり、早期発見、早期治療が重要です。
- ③ **U=U（Undetectable=Untransmittable）**：
治療を受け、血液中のウイルス量が検査で検出できない程度に最低6か月以上継続的に抑えられているH I V陽性者からは、性行為によってH I Vが感染することはありません。この状態をU=U（Undetectable：検出限界値未満=Untransmittable：H I V感染しない）といいます。

*ポイント（伝えたいメッセージ）

- ・「H I V検査は、保健所等で無料・匿名で受けることができる」という情報を知らない人が多い。みんなに知ってもらい、もっと活用してほしい。
- ・検査を受けることは、自分のためにも、相手のためにも大切なこと。自分のからだの状態を知ることは、自分をケアしていること。
- ・エイズを発症する前にH I Vの陽性がわかり早く治療を始めると、免疫低下を防ぎエイズを発症せずに生活することができます。また、**エイズを発症していても治療でウイルス量が抑えられることができると、あなたの大切な人に性行為等で感染させるリスクがほぼなくなるということ。（U=U）**
- ・感染していたとしても、さまざまな専門家やNGOが支えてくれ、一緒にH I V／エイズと向き合ってくれる。一人ではない。

◆ 偏見や差別の解消

- ・ HIVに対する偏見や差別には、感染力が強く日常接触でうつるという誤解や仕事、学校等の社会生活での差別などがあります。治療によって感染リスクは大きく下がり、適切な知識があれば通常の生活は可能であるにもかかわらず、恐怖や無知が差別を生むことで、感染不安のある方の検査や治療の遅れにもつながっています。
- ・ **レッドリボンは、エイズに関する理解と支援のシンボルマークであり、あなたがエイズに関して偏見をもっていない、エイズと共に生きる人々を差別しないというメッセージです。**

*ポイント（伝えたいメッセージ）

- ・ 「エイズは怖い」という、誤った、過去のイメージからHIV感染者への偏見・差別はまだ根強く残っている。感染者・患者も周囲からの偏見・差別が怖く、なかなかまわりに本当のことを告げることができない。一人ひとりがHIV感染症とエイズを正しく理解し、この課題と向き合うことによって、偏見・差別が解消され、みんなで話し合える場をつくることができる。
- ・ **レッドリボンの意味を知り、レッドリボンを身につけることによって、エイズをみんなで考えることが大切です。**

◆ 世界エイズデーについて

世界的レベルでのエイズまん延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消を図ることを目的として、12月1日が“World AIDS Day”(世界エイズデー)と定められました。この日を中心に世界各地でエイズ予防・支援のためのイベントなどが行われています。